

平成30年度松原地区町会連合会 役員名簿

以下の方々が30年度の役員の皆さんです。
よろしくお願ひします。(敬称略)

【三役・監事等】

会 長	清水 茂男 (第2町会)
副会長	片岡 功 (第5町会)
会 計	新保 俊尚 (第2町会)
監 事	土屋 澄彦 (第3町会)
監 事	川井 久幸 (第5町会)
町内公民館長会長	一之瀬はるみ (第1町会)

【町会長】

竹川 篤 (第1)	清水 茂男 (第2)
巾 孝好 (第3)	川崎 健史 (第4)
片岡 功 (第5)	市橋 保 (第6)
伊藤 伸一 (第7)	

【専門部会長】

環境衛生協議会	赤松 薫 (第6町会)
防災防犯部会	新井 彰人 (第5町会)
婦人部会	清水美奈子 (第1町会)
体育協会	杉本 令而 (第3町会)
文化広報委員会	勝山 英郎 (第5町会)
子ども会育成会	服田 芳明 (第1町会)
安協松原支部	小関 典明 (第3町会)
健康づくり推進員	大門千恵美 (第6町会)

《平成30年度編集委員》

委員長	勝山 英郎 (第5町会)
副委員長	佐藤 悦夫 (第6町会)
委 員	後町 加寿 (第1町会)
委 員	徳本 輝代 (第2町会)
委 員	富樫 勇 (第3町会)
委 員	中島 大輔 (第4町会)
委 員	百瀬 毅 (第7町会)
全市版委員	荒井かほる (第5町会)

今年度、地区町会連合会
長という大役を仰せつかりま
した松原第2町会長の清水で
す。

前会長の引継ぎ資料の多さ
に戸惑い、町会連合会運営に
対し無知であった事を痛感し
反省の日々です。これからの
皆様の知恵と力を借り勉強さ

新任のごあいさつ
地区町会連合会長
清水 茂男

ふれあいのまち



松原かわら版

世帯数 1,188 戸
人 口 2,987 人
高齢化率 24.8%
(平成 30.4.1 現在)

平成29年度に答申を受け平
成30年度に設置した(仮称)
松原地区地域包括ケアシステ
ム推進員会(別案・松原助け
合いシステム推進委員会、松
原を住みやすくする会等)は
連合三役、町会長、町内公民
館長会長、健康づくり推進員
長、民生児童委員、公民館長
公民館主事、福祉ひろば、包
括支援センター長、地区担当
保健師、地域づくりセンター
長、社協や市福祉計画課の地

区担当職員を交えて取
り組もうとしています。
今年5月には中信松
本病院の業務も村井に
移り、バス路線もどの
ようになるのか心配な
ところではあります。また活断
層の近くに住む者とし
て「起こる災害は止め
ることはできないが、
その後の対応次第で被
害を最小限に食い止め
る事ができる」、そうい
う地区で有り続けるよ
うに、役員全員力を合
わせ、楽しく住みやす
い地区になるよう取り
組んでまいりますので、
宜しくお願ひ申し上げ
ます。

新任町会長の紹介

第1町会
竹川 篤 さん



①釣り②28年目③空気がおいしく星が
一番綺麗な町④健康の為の体操(イン
ターバル速歩)⑤色んなイベントに参
加し、皆が気持ち良く挨拶出来る町に。

第2町会
清水 茂男 さん



①大型バイクでツーリング旅②22年目
③静かな環境④ソバ打ち、おとこの会
男性料理教室、子ども見守り隊、皆が
集まってる事⑤町の人が全員知り合
い、そんな町に住みたいとおもいませ
んか。気軽に挨拶が出来る日常。

第3町会
巾 孝好 さん



①D-I-Y②32年目③大きな公園が有り
住環境が良い④芋焼酎、松本山雅、D
I-Yツール⑤気軽に意見交換できる環
境作りに努めます。宜しく御指導下さ
い。

第4町会
川崎 健史 さん



①ギターの弾き語り②24年目③景観と
利便性が良い④四股踏み⑤私にとつて
も全てが勉強です。共に笑顔で楽しく
活動できる様に願っております。

①趣味・特技は?
②松原へ住んで何年目?
③松原の魅力は?
④マイブーム現在気になっていることは?
⑤地区の皆さんへ一言

凡例

第5町会
片岡 功 さん



①ゴルフ(今はマレット)、ソバ打ち
②32年目③静かな環境、病院・学校・
スーパー等生活に便利なお店④仲間
と行っている公民館活動(10年後の生
活環境)⑤町会運営は全く分かりませ
んが、地域の人々と知り合い、何でも
チャレンジで町会活動をしていきたい
と思います。

第6町会
市橋 保 さん



①旅行(妻と行く)、スポーツ(やる
こと、観ること)②24年目③古いしが
らみがなく住みやすいところ④11月に
生まれた初孫の成長⑤今まで通りの普
通の生活を継続できれば、こんな幸せ
はない。

第7町会
伊藤 伸一 さん



①ゴルフ、旅行、食べ歩き②27年目
③静かな街並み、北アルプスの景観④
松本山雅FCのサポーターとしてふれ
ずに応援し続けること⑤慣れないこと
で不安ですが、皆さんのご協力を頂き
ながら頑張りたいと思います。

春休みの 思い出イベント



「春休みを活用して、何か子どもたちの思い出に残ることをやろうよ！」今年も松原町会連合会の役員と公民館とでそんな話がされ、2つの講座が行われました。

■リニアモーターカー見学

2027年に東京と名古屋の約290kmを40分で結ぶリニア中央新幹線。今回は、リニア実験線に併設されているリニア見学センターに小学生23名、未就学児2名とで訪問しました。見学は地域の引率ボランティア3名と保護者2名で5つの班を作りグループ行動しました。

超電導で強力な磁力を発生させ、車体全体を浮上させて時速500km以上で走行するリニアモーターカー。その原理を、様々な装置や映像で子どもにも理解できるように工夫されていました。

実験線を矢のように駆け抜けた実車は、子どもたちが映像として味わう時間さえ与えてくれませんでした。科学技術の進歩により生活や暮らしが変わっていく予感を感じて、私たちの胸に残っていました。

■子ども卓球教室&カレー会

今年も明善中学卓球部の部員が小学生を指導してくれました。学年や技量が大きく異なる15名の小学生たちを2時間以上で上達させ、それぞれがゲームを楽しめるように指導することは、経験のない部員たちには大変なことです。

そこで卓球部員と顧問の先生、松原卓球クラブ、公民館とで事前検討会を持ちました。ルールやラケットの操作などの指導方法とグループ分けの仕方などを検討し、説明用のポスターや小道具を作って当日を迎えました。しつかり準備してくれた甲斐があり、小学生たちは見違えるように上達し、中には中学生とラリーを楽しむ子どももいました。

お昼は、松原地区公民館に全員で歩いて戻り、地区の有志の方々が作ってくれたライスカレーをみんなで楽しくいただきました。お腹も心も満足した子ども達は、みない顔を帰って帰って帰りました。来年は、こんなことも教えた、あそこはこうした方がよかったです。反省を口にする中学生には、年長者としての自覚を感じました。

人権視察研修 工女の故郷飛騨吉川

4月中頃、定員いっぱい参加者に乗せたバスは岐阜県の飛騨市役所駐車場に着くとサプライズが起こった。飛騨市の都竹淳也市長が、忙しい中の時間を割いて、明治大正期の製糸産業を支えた飛騨と信州の歴史についてお話をしてくださったのだ。歴史を踏まえながら未来志向の構想を語る若々しい市長の姿に、参加者皆がファンになったのではないだろうか。

引きつづき同市の観光大使で「飛騨の語り部」の鮎飛定男さんに街中を案内していただいた。古川の歴史や街並みのたずまいの説明を受けながら、工女の碑がある本光寺の境内で製糸産業を支えた乙女達について、手作りの紙芝居を使って当時の写真を見ながらお話を伺った。鮎飛さんの祖母「つやばあさん」は10代の少女時代から10年にわたって工女として働き続けたそう。毎年2月中旬に娘達は神岡などから古川に集まり一泊して、次の日に高山で一団となり、おこそ頭巾と朱いけだして幾つもの雪の峠を越えて岡谷、諏訪へ140キロの道のりを4、5日かけて向かった。各工場に「糸引き工女」として配属され、1年間働いて年末に給金を懐に故郷へ帰り、正月をトトツアア、カカマ、と一緒に家族で過ごした。

一般には35円から70円が年給で「100円工女」が目標だったようだ。確かに労働は楽ではないが、実家に居ても貧農、子沢山の生活であった。工場での集団生活は大変な半面、三食お米が食

べられて風呂にも入り、読み書きソロバン、裁縫を習い、休日にはオシャレして街に出たり、遠足などもあったようだ。映画「あゝ野麦峠」が必ずしも全てではないようだ。工女達はそれなりに青春を謳歌していたのだと思う。

(人権冊子刊行委員)



新任職員のご紹介



松原地区地域づくりセンター長 吉澤孝三

4月1日付で松原地区地域づくりセンター長に就任しました三澤孝吉と申します。

さて本年度の松原地区町会連合会の活動方針として

- ①災害に強いまち
- ②福祉活動、高齢者支援
- ③親睦の深化

等々に取組むとお伺いしております。この方針に沿いながら、皆さんと共に安心していきいきと暮らせる住みよい松原を創っていききたいと思っておりますので、ご教授、ご協力の程よろしくお願いいたします。

北の旅人

花壇を造ってみました

今年の桜の開花は駆け足で訪れ、春の嵐とともに散ってしまった。新緑がキラキラ輝き、早くも真夏日の気温上昇に驚かされる日々でもあった。松原地区は静かな環境と街並みでもあり、各家庭では草花が植えられ、散歩途中に出会う珍しい花には何故か心が躍る。来春に開催される「信州花フェスタ」を控え草花への関心をもう少し持ちたいと思った。我が家の空き地にも小さな花壇を造ってみた。雪解けを待ちすくすくと成長して、綺麗な花が咲き、殺風景な空き地が彩られた。もっと手を入れ沢山咲かせようと思うが、なかなかそうはいかない。土作りから始まり、散水、草取り、天候にも左右され、結構手が掛かるが、色とりどりの花を付けた時の感慨はこれ又嬉しくもあり、土いじりの楽しみを知った。松原地区も新年度がスタートし、各分野では活動が始まった。地区住民が作り上げてきた町、微力ながら何らかの形で協力出来るか、それを望みながら可憐な草花を愛おしむ。

(編集委員)